



海の王国である「水」(P125)は、「冬」(P95,171,185,209)の季節と対になっている。『*Trattato dell'Arte pittura* (絵画論)』(1585年)の中でロマッツォは「魚も牡蠣もすべて巧みに描かれ、まるで絵に水が満ちているかのように思わされる」と述べている。1566年の作品(現在はウィーン美術史美術館所蔵/P125)は、裏に「水」と記されている。この最後の絵では、王冠がサンゴやささまざまな水生種で構成されている。クジラ、セイウチ、タツノオトシゴ、ヒトデ。横顔は、ダンゴウオ、フグ、牡蠣、ヒキガエル、エビなど数多くの魚と網が組み合わさってできている。これら水生の脊椎動物たちには、うろこやひれがついている。

「羽のない3本足のひよこのスケッチ」

1571年

水彩およびグワッシュ

ウィーン オーストリア国立図書館